



馬の学校

馬の学校通信

2002. 5 vol.6



発行 馬の学校

事務局 〒560-0084 大阪府豊中市新千里南町 3-27-26 TEL/FAX : 06-6832-8455

E-mail : mine@dp.u-netsurf.ne.jp ホームページ : http://www1.u-netsurf.ne.jp/~mine/



夏のプログラム 参加者募集

ウマキャンプ

日程 : 7月25日(木) ~ 28日(日)

場所 : 小須田牧場 (山梨県北巨摩郡高根町清里3545)

対象 : 小学4年生 ~ 高校3年生 (定員6名)

参加費 : ¥41,000 (現地集合・解散)

宿泊費・食費・乗馬料金・指導料・写真代・通信費・保険料を含む。

ただし、1日目の昼食・最終日の夕食は含みません。

*大阪(阪急梅田)集合解散の場合のみ引率を行い、

小学生¥50,000 中学生以上¥55,000 (高速バスとJRを利用)

内容 : (予定)

	25日	26・27日	28日
午前	8:00 大阪集合	馬の手入れ(6時~) 馬小屋そうじ	馬の手入れ(6時~) 馬小屋そうじ・乗馬レッスン
午後	16:30 牧場集合 馬に触れる 作業の手伝い	乗馬レッスン 自然散策・工作等 作業の手伝い	13:30 牧場解散 21:45 大阪解散

ファミリープログラム in 清里

日程 : 8月13日(火)、14日(水)、15日(水)

午前10時~、午後1時~、3時~ (各1時間30分程度)

*日にちと時間をお選び下さい

場所 : 小須田牧場 (山梨県北巨摩郡高根町清里3545)

対象 : 幼・小・中・高校生のお子さんとそのご家族 (定員各回2~3家族)

参加費 : 1家族¥9,800 (現地集合・解散)

(乗馬料金・指導料・写真代・保険料・通信費を含む)

内容 : 馬に触れる・ブラシがけ・エサ作り

牧場を1周する引き馬(*)・馬小屋そうじ

*雨天の場合は、馬場での引き馬になります

お申し込みは6月1日から、電話・FAX・Eメールにて事務局まで

*ただし、8月13~15日はお電話にて小須田牧場(0551-48-2267)まで



男女雇用機会均等月間講演会

一馬の魅力を多くの人に

6月27日、池田市働く婦人の家主宰の講演会にて、講演をすることになりました。これまで歩んできた道程や馬の学校の活動などについてお話しする予定です。

日時 : 6月27日(木) 午後7時~9時

場所 : 池田市働く婦人の家(池田市栄本町9-1)

受講料 : 無料

定員 : 50名(女性又は男性)

お申し込みは 池田市働く婦人の家 0727-51-1445 まで



春のプログラム 活動報告

ウマキャンプ (3/23~26)



軽速歩に挑戦



エサ作りもしました

馬とのふれあいプログラム (4/5)



馬はあたたかいね



大きい馬もへっちゃら!

ファミリープログラム (4/27)



ハッピーも気持ちよさそう



馬が合図に反応してくれました



馬語録

「人が馬から信頼と自発的な協力を得るために欠かせない条件は、両者が中間地点で出会うということだろう。しかし、それを達成することができるかどうか、異なるグループに属する両者がハードルを越えてもう一方の側へ行き着けるかどうか、そのかぎを握っているのは人間のほうだ。人間は馬の信頼を得ることに心を砕くべきであり、けっして、おびえる動物という馬の立場を悪用してはならない。信頼を得ようと努めたとき、人はじめて馬と出会うことができる。」



『馬と話す男』より

おすすめの本

『馬と話す男』

モンティ・ロバーツ著

東江一紀訳 徳間書店



著者モンティ・ロバーツは、ロデオ競技場で馬とともに育ち、やがて

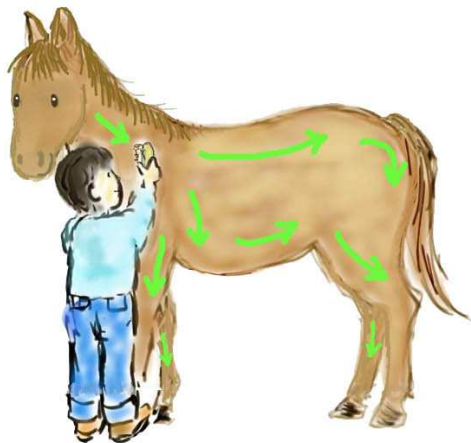
「馬語」を習得して、馬と心を通わせることで調教することに成功。「教える」という一方的な行為は存在しない。あるのは、学ぶという行為だけです。」というロバーツの調教法は、子どもとの関わりにも通じるものがあるように思います。

おうまの教室

馬にブラシをかけてあげよう！！

なぜブラシがけをするの？

馬のからだは、ほこりや砂、おがくすなどでよごれています。また運動するとあせもかきます。よごれを落として、きれいにしてあげましょう。



どうく ブラシがけの道具は？

ゴムブラシ

ほこりやよごれをうかせます。



毛ブラシ

よごれを取りながら毛並みをととのえます。



しっぽをとかします。



かなぐし

たてがみをとかします。



編集後記

あっという間にGWも終わってしまいました。皆さんはどこかに出かけられましたか？

最近、新聞の影響もあり、馬の学校の活動に関心を持ってくださった方からの問い合わせが増え、ボランティアとして参加していただくようになっています。こういう方々の力を結集すれば、5年後10年後には「何か」できるのではないかと考えています。それが「何」なのかは、まだ分かりませんが・・・。

さて、春のプログラムはすべて無事に終了することができました。私たちにとっても毎回新しい発見があり、また同時に次に向けての課題も見えてきて、「これで完璧！」ということはないのだなあと感じています。反対に、発見や課題が見えなくなれば、それ以上よいプログラムは生まれてこないでしょう。そのうえでも参加者の皆さんからのアンケートは、貴重なものです。これまで回答してくださった皆さんに感謝するとともに、これからもよろしくお願いいたします。 (峯崎 友香理)